

PB マングローブの森の植林状況報告 及び インドネシアにおけるマングローブ植林活動の拡大について ～ベッドユーザーの睡眠が植林活動を支える社会貢献型ポイントプログラム～

■PBマングローブの森の植林状況報告

2022年3月より開始しました植林活動の現状報告をさせていただきます。
「PB マングローブの森」の植林地は、西ヌサ・テンガラ州 スンバワ県 ウタン地区 バトゥ
レア村(座標:8°25'15.8"S 117°05'44.7"E)に決定しました。



「PB マングローブの森」の植林地は、衛星画像で確認できる範囲では15年以上前に開発はされていましたが、現在は使用されず放置され、雑草や藻が生い茂っておりました。この土地を整備し、マングローブの植林を実施しました。



こちらは植林が完了した池の1つとなります。池の中に棒状に見えるものが植林したマン

グローブです。こちらの池では、マングローブを植林する際に種子の横に添え木を立て、種子を添え木に結びつけています。添え木を使用することでマングローブの種子が植林後に、倒れたり曲がったりするのを防ぎ、初期成長を促すためのものとなります。



マングローブは既に葉を4～6枚ほど付けています。バトゥレア村の養殖池は全体的に塩分濃度が低く、マングローブが成長しやすい環境になっています。

育林の観点よりマングローブは同じ場所に2本同時に植林を行っております。マングローブの活着が悪い場所に2本同時に植えることで活着の確立をあげることが期待できます。また、マングローブが大きく成長した際に生じる自然淘汰を、可能な限り抑制させるためマングローブ同士を一定の間隔で植林しております。今後も継続し、PBマングローブの森の植林状況報告をいたします。

■インドネシアにおけるマングローブ植林活動の拡大

インドネシア共和国西ヌサ・テンガラ州において行っているマングローブ植林活動「PB マングローブの森」の規模を拡大することとなりました。

この植林活動は昨年2月に開始したポイントプログラムを活用したものです。「眠りのポイント」というこのポイントプログラムでは、睡眠状況を把握できる電動ベッド「Active Sleep BED」用スマートフォンアプリにおける睡眠スコアの状況やアンケート回答などでポイントが貯まります。ポイントの蓄積が社会貢献につながることを目指しています。11月末時点で約3,400人の方に利用され、合計23ヘクタール・57,500本規模となり、二酸化炭素(CO₂)吸収貯蓄量は最大約2.7万トン相当を見込んでいます。今後も同ポイントの蓄積に応じて、同地にて継続的に植林活動を行うことで、地球温暖化対策や自然環境の回復保全、地域住民の生活向上等への貢献を目指してまいります。

当社グループは、ESG 経営推進のための重点課題(マテリアリティ)として「すべての人が健康でいきいきと暮らせる環境づくり」「環境に配慮した事業活動」等を掲げ、持続可能な循環型社会・脱炭素社会実現への貢献を目指しています。本取組みはSDGs 目標の1

番(貧困をなくそう)、8番(働きがいも経済成長も)、10番(人や国の不平等をなくそう)、11番(住み続けられるまちづくりを)、13番(気候変動に具体的な対策を)、14番(海の豊かさを守ろう)、15番(陸の豊かさを守ろう)および17番(パートナーシップで目標を達成しよう)に貢献するものと考えております。

